

# 令和6年度「せたがや会議～みんなで考える多文化共生のまち～」

(外国人・日本人区民による意見交換会)

## 実施報告

### 1. 目的

国籍を問わず誰もが暮らしやすい多文化共生社会の構築に向けて、区民同士で日頃から感じていることを意見交換し合うことで、課題や情報を共有し、問題についての認識を深めるとともに、参加者同士の交流機会創出を目的とする。

### 2. 開催日時

令和6年12月14日（土）午後2時～午後4時30分

### 3. 開催場所

三茶しゃれなあどホール（オリオン）（世田谷区三軒茶屋1-41-10）

### 4. テーマ

「様々な言語・文化を持つ人々がともに暮らしていくために」

様々な言語・文化を持つ人々が一緒に暮らしていくために知っておきたいことなどをグループで考え、それを多くの人に伝えるためのリーフレットの案を作るワークショップ

### 5. 参加者数

計30名 ※公募による

(1) 外国人区民16名

(2) 日本人区民14名

### 6. 全体コーディネーター及び協力者

(1) 講師：吉田 千春氏（中央大学法学部助教／イクリスせたがや代表）

：ゴロウィナ・クセーニヤ氏（東洋大学社会学部准教授／イクリスせたがや代表）

(2) グループファシリテーター：大学生による学生ボランティア14名

（中央大学、明治大学、東洋大学、日本大学）

(3) 通訳：中国語1名 英語5名

※通訳希望のあった参加者のいるグループのみ配置

## 7. 「せたがや会議」の流れ

| 時間     | 内容  |
|--------|---|
| 14:00～ | 開会、講師の紹介など  |
| 14:15～ | (6グループに分かれての活動)<br>(前半) アイスブレイク<br>(アート作品の作成、自己紹介、参加者同士の交流)<br>(後半) 意見交換<br>(多文化共生リーフレット作成) |
| 16:00～ | 意見交換の共有、まとめ   |
| 16:30  | 閉会  |

### 当日の活動の様子



アイスブレイクで作ったアート作品



各グループでの意見交換



各グループでの意見交換



全体の様子



With  
 grace, love  
 and understanding  
 ~人をつなぐ"共生"~

{ 生きる }  
 { 生きると }

国籍, 性別などをあきらめない!  
 ↳その人"が"つながる。

"共生"というワードから意識するのは、  
 愛や優しさを感じているその"繋がり"がいい  
 人間同士の

世田谷は  
 世界だ  
 ~ 出会う・知り合う・つながり合う ~

それ知ってる!

ALL FOR ONE  
 TODOS JUNTOS  
 世田谷といっしょに!

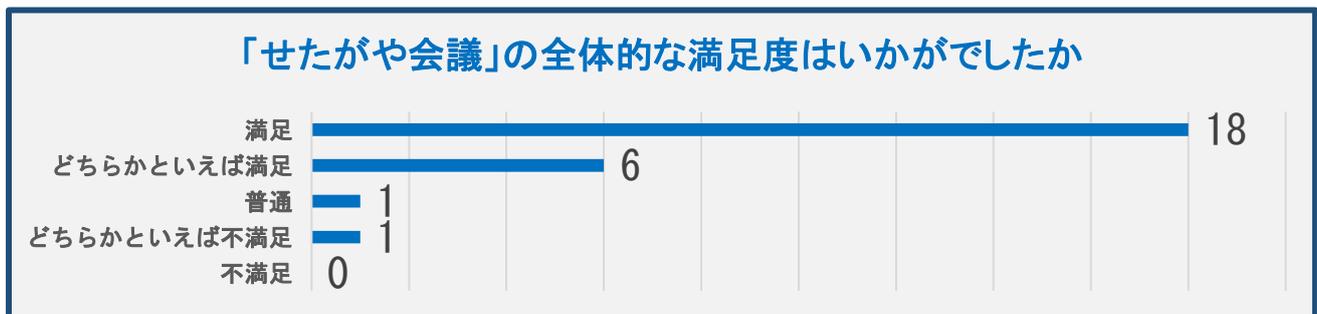
・すべての人に情報が伝わる  
 よくに  
 ・お互いがお互いのためにつなごう

<外国人も住みやすい街にするためには>※意見抜粋

- ・多言語化
- ・やさしい日本語を取り入れる
- ・地域とのかかわり
- ・外国人住民と日本人住民が話せる場を増やす
- ・地域の団結力を上げるイベント
- ・多様性が自慢できるまち
- ・ワンストップ相談窓口
- ・外国人学校を増やす
- ・だれでも子育てができるまち
- ・簡単な説明とリマインダー（何を、いつ、どのように、なぜ払うのか等）
- ・家賃を下げる
- ・留学生のサポートの充実
- ・言葉に頼らないコミュニケーションを増やす（アート、フード、ファッション、音楽イベント）
- ・外国人のイベントや教室を増やす
- ・大学（教育機関）との交流（集まる機会）
- ・図書館をもっと増やす
- ・日本文化と異文化を理解する
- ・話すとき笑顔
- ・緊急時も英語で伝える
- ・距離感を感じさせないようにする
- ・日常的な文化を学べる所がほしい
- ・趣味などの情報がほしい
- ・特にリーフレットなどの内容をわかりやすくする
- ・病院で医療用語が難しいので、ホットライン通訳者がほしい
- ・リーフレット・ウェブサイトではどれが自分に必要かわからないので、パーソナライズされたイベントの案内がほしい（email）
- ・教育システムの簡易化（途中で転入・入学の手続きが難しい。日本は前もっての申請がないと入れなかった。アメリカでは、引っ越してきて、まちの手続きをしたら次の日からその学校に通えた。）
- ・システムの違いの説明などがわからなくても、そもそも何を聞けばいいかわからない。こっちが聞きに行くのではなくて、まとめてレクチャーしてくれたり、資料を準備してくれた方が○。
- ・知りたいことをカテゴリ別に分ける
- ・ここにいけばわかるの共通認識の拡大
- ・世田谷区の公式ラインを作る（困ってることは何？→入力→じゃあここを使ってみてくださいといったような仕組みや窓口があるとよさげ）
- ・より多くの媒体でイベント情報を提供する
- ・困っている人に声をかける
- ・ステレオタイプ的な認識をなくす

- ・世田谷区は区民と役所が信頼関係で結ばれるような community city を積極的に進めよう
- ・日本人は…〇〇人は…といったような「ちがい」からコミュニケーションが始まる、違いを意識したコミュニケーション
- ・多文化共生を意識した学校教育が必要。保護者へのサポートをする

## 9. 参加者アンケート集計（回答者：26名／30名）



### 【その他、ご意見・感想等（抜粋）】

- ・ comments: it will be better if we had more time sharing about cultures, more than making a slogan. （スローガンの作成よりも、文化についてシェアする時間をもっとあればよかった）
- ・ Thank you so much for sharing this events and give us the opportunity to participate in. （このイベントで共有できたこと、参加する機会を与えてくれたこと、ありがとうございました）
- ・ You are doing an incredible work doing all these, as a foraner is really refreshing and warming to know about all these. （先導者として素晴らしい仕事をしてくれたと思う、楽しく温かみあるワークだった）
- ・ 様々な意見を聞くことができ、面白かった。全員がうまく住みよく暮らしていければいいなと思った。